



有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070 FAX:0258-66-0447

クイーン倶楽部だより 11月号



田んぼを丸ごと愉しもう！①

白藤のワラで わらじ作りに挑戦!!

青年地域連携プロジェクト
東京家政大学の学生と
0歳の専業主婦の
「白藤」復活に挑戦!

今年で3年目を迎えた白藤プロジェクト。昨年までは「米」の活用のみに視点を置いていましたが、今年からは田んぼを丸ごと愉しむ！をテーマに活動します。

今回は「わらじ作り」「ちまき作り」「足踏み脱穀体験」を行いました。

まずはわらじ作り。南魚沼市の限界集落に住むワラ細工名人・佐藤善兵衛さんに教えるを願い、わらじ作りに挑戦。普段全く縁のないワラの扱いに学生たちは手こずりましたが、夕暮れがせまる中なんとか片足分だけ完成。先人の知恵を学べた有意義な一日でした。



堅いワラを叩いて柔らかくします。見かけによらず重労働!



ワラを両手で振りながらさらに反対方向に振ります。



両手を広げた二倍の長さの紐は足らぬ外側の部分になります。



足の指に引っ掛け力を込めて伸ばしながら編んでいきます。

裏面へ続く>>>

Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士、東京家政大学家政学部栄養学教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

が、はさかただけはいつまでも残ってほしい風景です。

干し方にも変化があつて、一つの棒に絡ませる方式があります(どう干すのかわかりませんが)、故郷の鹿児島では吊るすことより、稲刈りの後、そのまま土の上に干して、数日水除けのために高く土を盛り土俵みたいなものに稲を積み重ねて帽子をかぶせていました。それを「こずん」と呼んでいましたが、脱穀まで稲を寝かせておくものでした。この風景は二度と現れないと思

観光ものです。

干し方にも変化があつて、一つの棒に絡ませる方式があります(どう干すのかわかりませんが)、故郷の鹿児島では吊るすことより、稲刈りの後、そのまま土の上に干して、数日水除けのために高く土を盛り土俵みたいなものに稲を積み重ねて帽子をかぶせていました。それを「こずん」と呼んでいましたが、脱穀まで稲を寝かせておくものでした。この風景は二度と現れないと思

はさかたの仕方は地方で色々方法があるようです。一般には一列に並べていくシングルが基本ですが、ダブル(二階建て)もたまにあります。石川県の加賀市あたりでは、5〜6階建てのマルチ式でした。最も由緒あるものは、あぜに榎の木があつて、それに横木(梁)を通して、掛けさせるものです。それが実際にあれば観光ものです。

天日干しはコンバイン導入と同時に消える運命にあると思つていたのですが、とこがどい生き残っています。それどころか最近増えたような気がします。皆そのメリットを知つて実行しているのでしょう。

天日干しとは、稲刈り後に稲を束ねて「はさかけ稲架」に吊るして日光で乾燥させることです。はさかけという知らない方が多いと思います。その点、天日干しという知らない方も何となく分り情緒も漂います。雪国の春調に「秋空、イワシ雲、天日干し」と歌いたくなります。

なぜ、はさかけや天日干しという手の込んだことをするのだと聞きますと、皆一様に美味になるからと答えます。だったら、天日干ししたら、そのお米にお日様マークをつけて売り出せば差別化できます。マーク付きのお米は多少値を上げてよいかと思

第35回 天日干しは付加価値だ!